令和７年度中学校区別研修会　報告まとめ

【防災】

中学校区	１．防災について情報交換	２．防災について共通理解や共有	３．その他
宮原	以前より中学校区では地域の防災幹事会主催による防災訓練や体験講習等を開催しており、PTAが主体というよりは地域が主体となり活動し、単位PTAとしても児童、生徒を通じて一緒に活動している。本年度も11月29日に「みんなで防災を考える集いin宮原2025」の開催予定としている。 中学校では授業の一環として全学年を対象として実施している。今年度は2年生を中心に地区ごとに分かれて避難所の模擬運営を行い、水やお湯をかけるだけで炊けるアルファ米を使った炊き出しを行う。1年生は文化発表会で行った防災を題材にした劇を行う。地元消防団より宮原小学校、坪内小学校にも校長先生を通じて参加を呼び掛けている。 防災に関する児童、生徒の教育としては授業の中で講師を呼び、地域の災害リスクを踏まえた知識の習得や、フィールドワークを実施し避難ルートや危険個所の把握、建物の中での垂直避難などの方法を共有している。	地元防災については地域柄、高齢者が避難しにくい環境で、避難所の環境整備についても安心できる状況になっているのかどうかが把握と理解がなされていない。地域防災と連携し、災害が発生する前にどのような行動をとるか、また、自分たちがどこに避難すべきかを把握する事と、地域の備えがどのようになっているかを共有情報として持っておく必要がある。 災害学習や体験を実施するためには保護者の参加が望ましいが、日曜日等休暇を利用し開催しないと集まりにくい状況。教職員の働き方改革とのバランスも困難である。	宮原地区は丘陵地帯になるので、避難所までの避難に関しての所要時間がかかる事と避難するルートに関しても安全なルートが分かりにくい状況。日ごろからのハザードマップの確認（定期的に変わる事もあるため）と避難ルートの検証が大切。
東畑		（東畑中） ・フェンスに穴が空いていて，猪・狸が校内に侵入し危険な状態であったが現在は全て補修済みである。	
蒲刈	・１年に２度（６月：大雨・土砂災害想定・１１月：地震津波想定），小中合同で避難訓練を実施している。 ・先日，児童が学校で教育活動をしている際に、大雨警報が発令された。引き渡し連絡のタイミングを小学校は，大雨の雲が切れそうな５時間目が終わった時刻にした。中学校は、警報が解除になりそうなので，そのまま活動を続けた。学校で発災した際の「待機か引き渡しか」については，状況に応じて想定してみることが必要。また，状況変化における判断も必要になってくる。引き渡しのありかたを考えたい。 例：①小学校の場合，引き渡しを判断しても，ほとんどの児童が放課後児童会に参加する。 ②引き渡しをして下校させることで，危険な場合もある。 ・今年度は，自衛隊を招いてより具体的かつ実践的な訓練をする。PTAもできるだけ参加し，訓練までにどんなことを共有しておくことが必要かを考えておく。 ・地域のことは地域でする必要がある。それぞれの地区や家庭でも、「土砂災害を想定した場合」，「防災グッズについて」，「発災時の通信手段」，「非常食の考え方」等。 ・東日本大震災の被災地へ，防災教育の研修へ参加してきた。語り部をしている方が２つの話をしたことが印象に残った。 (1)　「訓練を年２回していたが，それでも地区から犠牲者が出た。実際に発災したら，訓練してきたことだけでなく，より正確な情報を自分から獲得し判断して，避難することが大切です。『津波』てんでこ」 (2)　「災害を体験した人からの話を聞くことで，災害への危機意識（当事者意識）を高めることができる。それができない場合は，語り部の話を聞いた人が語り伝えていく。」	○　小中合同避難訓練「地震津波想定」について ・　１１月５日（水）　9:30～12:00　地震後の１次避難→２次避難を実施後，自衛隊によ　る講話・演習等。　学校から依頼があれば、PTAとして手伝う。 ・　保護者だけでなく，地域の方々にも参加を求め，当事者意識を高めていただきたい。声をかけ合って参加しましょう。駐車場は小市浜を利用する。	
豊浜	・豊小学校、豊浜中学校で小中合同防災学習を毎年実施 ・各生徒が自宅付近の各地区に分かれて地域の方や先生と共に避難所と地域の災害についての確認をしている。 ・豊小学校、豊浜中学校各学校での第一避難所の確認と移動訓練の実施 ・呉市防災週間の取り組み。小中学校各学校での指導員による災害対策説明	・豊小学校学校経営構想図★自分の命は自分で守る児童の育成 ・豊浜中学校学校経営構想図★いざという時自分の力で動ける生徒の育成 ・気象警報発令時の対応についての基準を設け対応している。	

【SNS】

中学校区	１．ＳＮＳについて情報交換	２．ＳＮＳについて共通理解や共有	３．その他

なし

【いじめ】

中学校区	１．いじめについて情報交換	２．いじめについて共通理解や共有	３．その他

なし

【不登校】

中学校区	１．不登校について情報交換	２．不登校について共通理解や共有	３．その他

なし

【子育て】

中学校区	１．子育てについて情報交換	２．子育てについて共通理解や共有	３．その他
東畑	（原小） ・１年生の保護者（お父さん）が副会長を務めており，これからの時代に合った新しいＰＴＡ活動を模索していく。		

令和７年度中学校区別研修会　報告まとめ

【PTA運営】

中学校区	1．ＰＴＡ運営について情報交換	2．ＰＴＡ運営について共通理解や共有	3．その他
広中央	（広小） 　令和6年度よりこれまでのクラス役員選出からサポーター活動に漸次移行した。令和7年度からは本格的にサポーター制度を実施している。それに伴い、規約の改正も行った。 　サポーター活動のキーワードとして【1・できる人が、できる時に、できる事を、集まった人数で】【2・必要な活動に対して柔軟に対応、進化していけるPTAへ】とし、一人一人の負担を減らし、楽しんで活動ができる範囲の内容へ変更した。これまでの活動では保護者からの「義務・犠牲・我慢」が見られた。 　活動の柱としては「交通安全指導」として毎日の登下校時の見守り活動をそれぞれの家庭で、出来る範囲(時間や場所)で行えるようにした。交通安全協会から黄色い旗を頂き、各家庭に配付し、活動に役立ててもらった。PTA活動としてプールの授業支援(監視)・ミシンの授業支援・ノコギリ授業支援、図書室のバーコード化に伴う図書整美(図書の修理やバーコードの貼り付け、電算処理など)その他、運動会、学習発表会当日の片付けをその都度参加者を募集した。 　活動後にアンケートを実施し、意見の集約を行っている。おおむね好意的なものが多かった。 　また、学校側からも授業の支援は先生だけでなく保護者の目があることで、子どもたちが安全に授業に取り組めたとの意見があった。	（広中央中） ・クラス役員の負担を軽減するため、サポーター制度へ変更。始めたばかりで、集まらなかった際の対応策を検討中。 他校のサポーター制度がどのような形で行われているか参考にしたい。 ・PTA加入率の低下。保護者を含めた行事など学校と共有して検討。 ・本部役員の勧誘が困難になりつつある。 ・毎年P連ソフトバレーの試合日と、部活の試合が被る為、ソフトバレーに参加したい保護者も先生も参加できず、人員不足のため来年度以降の参加が難しい。 参加したい思いがあるだけに、ソフトバレーの日程の変更を検討して頂けたら助かります。	
横路	（横路中） ・もっと簡単に活動していくようにしたい。 ・毎年活動を振り返って次の年に生かしていくようにしている。 （横路小） 学校間ミーティングを年３回くらいのペースで行いたい。	・小中学校の連携をさらに行って子どものためになる活動を行って行きたい。	
警固屋	・生徒数が減少しており，それに伴い部活動の数も制限される。中学校進学にあたり，部活理由でも指定学校変更を希望する児童もいて，更に家庭数も減りＰＴＡ活動も縮小傾向にある。 ・近年，勤務等の関係で，ＰＴＡ活動に参加できにくい家庭が増えているが，保護者同士のつながりは大切にしたい。そこで，ＰＴＡ総会を対面で行ったり，学級懇談会を年に数回行ったりすることで，つながりを大切にしている。 ・小学校は，令和４年に組織改正を行った。ＰＴＡ役員は，公平性や負担軽減のため，全員持ち回りで行っている。執行部も毎年交代することにしている。よさは，ＰＴＡ活動を必要最低限にすることでの負担軽減。役員のためのマニュアルもあるので，無理なく引き受けることができる。課題は毎年会長や執行部が交代することで，引継ぎに不安が残ることである。 ・中学校は，執行部や会長が同じ人が数年続けて役を担っている。よさは，ＰＴＡ活動に参加することで学校や保護者同士のつながりを深めることができる。課題は，３年間で生徒が卒業するため会長職を次年度担う保護者が見つかりにくいことである。	・ＰＴＡ活動は，できることをできる範囲内で無理なく行えばよい。	
和庄	・今回、校区別研修会にさきがけて、４校共通で役員対象にアンケートを行い、その結果をもとに、４校の会長が対面で集まり意見交換をするという形をとりました。アンケート結果は別紙参照。 ・各校ともに行事の削減や、効率化に取り組んでおり、役員（執行部など）からは比較的、肯定的な意見をいただいています。 ・その中で、役員のなり手不足や、情報共有（ＰＴＡ活動詳細や意義、単Ｐ内での連絡）が課題としてあげられました。また、コミュニティ・スクールについても種々の意見がでました。	・なり手不足に関して。結局大切なのは人と人の関係。ＰＴＡ本来の意義である「子どもたちの安心・安全な学校生活のために、教職員と保護者、また保護者同士の連携・親睦をはかる。」という原点に立ち返って、ただ単に行事のお知らせ、報告をするだけはなく、ＰＴＡの意義自体の広報的な活動を充実させることも必要だと感じました。また、中学校区で協働（たとえばソフトバレーの合同練習を行うなど）して、校区の垣根も超え、さらに親睦を深めるなかで、ＰＴＡ活動に興味を持っていただく、ご理解ご協力をお願いするという方向性が必要ではないか？という意見が出ました。 ・ただ、親睦深める行事等を増やすと、役員としての仕事が増えるというジレンマがあることも事実です。共働きの家庭が多い昨今、そのバランスが難しいという課題もうまれてきます。なるべく、細々とした業務の数を減らしつつ、もっと対面で情報共有、親睦を深める施策が必要だと考えます。	・呉市ＰＴＡ連合会に対しての要望書を提出
東畑	（東畑中） ・体育大会に使用しているテントが古くて重いものが多いため，子どもたちが安全に組み立て片付けができるものに交換していく予定。買い換えの費用は，繰越金に加え募金活動で集まった支援金を活用する。募金活動については，保護者の方々が多く集まる行事の受付に酒樽を設置し「樽募金」を行う。 （明立小） ・委員会を無くし執行部を中心に活動している。運動会など学校行事で人手が必要な時はボランティアを募っている。協力的な保護者も多く助かっている。	（東畑中） ・ソフトボール大会を継続してほしい。保護者が交流をして親睦を深めるためには，ソフトボールが良いのではないか，来年度まで多目的広場が使用できるので，開催は可能だと思う。 （原小） ・児童数の減少と物価高により，出費を抑えるため，講演会を中止することにした。校長先生と教頭先生が同時に交代されたので引き継ぎが困難な活動も発生している。 （明立小） ・ＰＴＡ会員に加入していない保護者が数名おり，今後も増加していくのではないか懸念している。 ・今年度は明立小の体育館に空きがなく，ソフバの練習ができず大会に参加できなかったが，来年度は中学校の体育館で練習して，東畑中のチームでの参加を計画している。	

令和７年度中学校区別研修会　報告まとめ

片山	テーマ：ＰＴＡ実行委員の任意参加への移行に伴う参加者の減少について 継続していくための方策について 共通の問題点：Ｒ５年度よりＰＴＡ実行委員への参加を完全任意制に移行し、今年度は片山中５名、荘山田小１６名(会計監査含む)と、子供の人数に比して少人数で運営せざるを得ない状況・新規参加者が少ない・男性がいない 対応策：片山中－保護者への周知機会を増やす 【伝えたいこと】 ・実行委員メンバーが少なく、募集していること ・オンライン化を進めており、会議などで集まる負担は少ないこと ・学校運営協議会に参加すると、学校の様子を見る機会が増え、ＰＴＡとして協力できる取り組みが見えてくること 荘山田小－保護者のＰＴＡに対する嫌悪意識を払拭できるようなアプローチ 「実行委員会だより」２か月に１回発行→現在進行形の活動報告 「さくらの風」(ＰＴＡ広報誌)年２回発行→ＰＴＡ活動紹介＆募集 【伝えたいこと】 ・活動内容を見直し、「できる時にできる事を」無理なく分担し、楽しく活動できるよう、工夫をしていること	共通の目標：ＰＴＡを廃止することなく、必要な活動を無理なく継続できるような組織づくり 対応策：必要な活動を明確に絞る 片山中－必要な活動：学校行事の手伝い(体育大会等) 継続したい活動：あいさつ運動・制服交換会・第６地区夏祭り出店 荘山田小－必要な活動：学校行事手伝い(運動会・学習発表会等)、あいさつ運動 年度ごとに検討する活動：主催行事・広報誌作成・式での会長挨拶 共通－ほとんどの子供が荘山田小から片山中に進学するので、ＰＴＡ活動についてもギャップが少ないよう、今後も情報を共有し、協力しあう 〇呉市ＰＴＡ連合会の参加について、意見交換 ・単Ｐの要望を市政に伝えるためにも、参加する意義と必要性は感じるが、部会の時間が 遅く、参加が難しいメンバーがほとんど→会合へのオンラインでの参加要請を伝える ・市Ｐ連の行事：参加できるように、随時メンバーに声かけをする　できる範囲での継続	
両城		・入会にかかる同意について →両城小は次年度検討、ほか２校は予定なし（今後検討） →加入しない家庭が出ることへの不安、加入率が低下する他自治体事例の懸念 ・兄弟姉妹在籍時の会費について →両城中と港町小は長兄のみ、両城小は児童人数分（両城小について今後検討） ・役員の選任（なり手不足）について →両城中：執行部１３名、クラス委員２名ずつ（投票） →港町小：執行部８名（実質３年任期）、クラス委員３名ずつ（投票） →両城小：執行部６名（クラス１名ずつ、くじ引き、１年任期）、クラス委員なし →執行部含め、なり手不足は全校の課題	